

登山口で小雨でしたが、すぐに良くなりました。幻想的な景色も楽しみ、この日ならではの素晴らしい景色や自然を楽しみました。「今年、初めて寒いね」と、談笑しながら、ナメコ収穫体験やキタヤマブシの花など自然観察を楽しみました。このコースでは、ピンクのキタヤマブシの花があるのですが、今年も観察できました。また、三十三間山から能登越えまでの樹林は、木々は細いですが、すばらしく見応えあります。何度も訪ねてみたいコースです。今日も自然に感謝。出会いに感謝の一日でした。

◆歴史探訪 古道近江坂：この古道は、近江酒波寺岩劔（いわつるぎ）神社（高島市今津町）と若狭の闇見（くらみ）

神社を人馬が往来した道である。南北朝以前は、滋賀県大杉から三十三間山、新庄、大日の沢白石平山、黒川谷に至る山域は、酒波寺の寺領であった。山入（芝や薪を採る）の年貢を倉見、能登野から運んだり、酒波から祈祷のために倉見に向いたりと往来がされていた。南北朝時代になると北朝の將軍足利尊氏が軍資金を得るために、山にも重い課税をし始めた。酒波寺が年貢を払えないため、倉見一族と話をし、西暦 1351 年に三十三間山西側の山入権を倉見一族に渡し、その交換条件に、後冷泉天皇の直筆と伝えられている大般若経 600 巻を酒波寺に渡したという話が残っている。その後も若狭と近江側では、祭礼や流鏑馬行事、大般若経の祈祷会などで、人馬の往来が絶えることなく、この道が使われていた。

◆自然観察①カラマツソウとマツカゼソウの比較：葉の形や付き方が違う（今日は、どちらもみました）



カラマツソウの仲間は、花弁がなく開花すると直ぐに落ちてしまうため細長い雄しべだけが目立つ。その花の形が唐松の葉に似ていることから名付けられた。



一種の香気がある。花期は長く、夏から秋まで花をつける。

カラマツソウ：キンポウゲ科カラマツソウ属

マツカゼソウ：ミカン科マツカゼソウ族

自然観察②

この花は、先端から咲きだし、順番に種になる

ピンクの花

高島市の山々の紅葉は、シラキから始まります



キタヤマブシの花



キタヤマブシの種



キタヤマブシ



シラキの紅葉



アキチョウジの花

◆トレッキングの様子



登山口



風神：旅の安全をお願いして



眺望も良くなり



三十三間山頂にて



ブナ原生林



ナメコ収穫体験

「お土産ができた」と喜ばれました。



きれいな樹林に「良いね」



「能登越はあそこで～す」



キタヤマブシの花があちこち咲き誇っています。



能登越です。近江坂に入りました。